

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 29 年 6 月 29 日 (2017.6.29)

【公開番号】特開 2015-228056 (P2015-228056A)

【公開日】平成 27 年 12 月 17 日 (2015.12.17)

【年通号数】公開・登録公報 2015-079

【出願番号】特願 2014-112522 (P2014-112522)

【国際特許分類】

G 0 6 T 3/00 (2006.01)

G 0 6 T 1/60 (2006.01)

H 0 4 N 5/74 (2006.01)

【F I】

G 0 6 T 3/00 2 0 0

G 0 6 T 1/60 4 5 0 D

H 0 4 N 5/74 D

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 5 月 22 日 (2017.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

VRAM121 の各々において、第 j 行第 i 列の単位記憶領域を $A(i, j)$ と表すと、VRAM1211 の単位記憶領域 $A(s, t)$ には、画素 $P(4s, 2t)$ および画素 $P(4s+1, 2t)$ のデータが記憶される。VRAM1212 の単位記憶領域 $A(s, t)$ には、画素 $P(4s+2, 2t)$ および画素 $P(4s+3, 2t)$ のデータが記憶される。VRAM1213 の単位記憶領域 $A(s, t)$ には、画素 $P(4s, 2t+1)$ および画素 $P(4s+1, 2t+1)$ のデータが記憶される。VRAM1214 の単位記憶領域 $A(s, t)$ には、画素 $P(4s+2, 2t+1)$ および画素 $P(4s+3, 2t+1)$ のデータが記憶される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 2】

例えば、参照画素 $P_1 \sim P_4$ が、 $(3, 1)$ 、 $(4, 1)$ 、 $(3, 2)$ 、および $(4, 2)$ の間にあった場合、VRAM1211 の単位記憶領域 $A(1, 1)$ に記憶されているデータ ($P(4, \underline{2})$ および $P(5, \underline{2})$ のデータ)、VRAM1212 の単位記憶領域 $A(0, 1)$ に記憶されているデータ ($P(2, 2)$ および $P(3, 2)$ のデータ)、VRAM1213 の単位記憶領域 $A(1, 0)$ に記憶されているデータ ($P(4, \underline{1})$ および $P(5, \underline{1})$ のデータ)、および VRAM1214 の単位記憶領域 $A(0, 0)$ に記憶されているデータ ($P(2, 1)$ および $P(3, 1)$ のデータ) が読み出される。この場合は、メモリーへのアクセスは 4 回である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

3. 動作

以下、表示装置1の動作例を説明する。ここでは、光変調器131が、WVGA相当の解像度を有する例を用いて説明する。すなわち、光変調器131は、480行800列の画素を有する($r = 480$ 、 $c = 800$)。オフセット最大値は120に設定されている($O_{max} = 120$)。VRAM121は、241行分のデータを記憶するための記憶領域を有する。なお、241行分とは、オフセット最大値(この例では120行)の2倍に、処理対象画素(この例では1行)の記憶領域を加算した値である。オフセットテーブル129は、各画素のオフセットベクトルを記憶している。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0094

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0094】

ステップS109において、補正部127は、1行分の処理が完了したか、すなわち、 $Cx = 801$ となったか判断する。まだ1行分の処理が完了していないと判断された場合(S109:NO)、補正部127は、処理をステップS104に移行する。1行分の処理が完了したと判断された場合(S109:YES)、補正部127は、処理をステップS110に移行する。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0130

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0130】

4 - 7. 変形例7

VRAM121の記憶容量は、実施形態で説明したものに限定されない。例えば、オフセット最大値がリードカウンターの進行方向に対して正方向および負方向の双方について個別に設定されていた場合、正方向のオフセット最大値、負方向のオフセット最大値、および処理対象画素の記憶領域を加算した値に相当する行数の記憶領域を有していてもよい。具体的には、正方向のオフセット最大値 $O^+_{max} = 120$ 、負方向のオフセット最大値 $O^-_{max} = 80$ 、処理対象の画素数が1の場合、VRAM121は、201($= 120 + 80 + 1$)行分の記憶領域を有していればよい。このとき、ライトカウンターCwの値は、次式(18)のように、リードカウンターCrに対して、負方向のオフセット最大値分ずらしておけばよい。

$$Cw = Cr + O^-_{max} \quad \dots (18)$$

【手続補正6】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】

